

【巻頭言】 チェンバロとピアノの発音原理の歴史とそのレパートリー	山名 敏之 p.2
日本音楽表現学会第17回(かきつばた)大会のご案内 その1	p.3
ご案内、実行委員会組織、大会日程と会場、プログラム概要と発表者氏名	
受付、アクセス、宿泊、参加費、懇親会、参加申込、総会委任状、等	
新入会員紹介	p.8
日本音楽表現学会後援コンサート等情報	p.9
会員による新刊	p.10
『音楽表現学のフィールド2』はお持ちですか?	p.10
【随想】 デジタル時代の研究者	小野 亮祐 p.11
『音楽表現学』Vol.17 原稿募集	p.12
事務局からの重要なお知らせとお願い	p.13
年会費の納入について	
住所等会員情報の変更	
学会員のサポート制度	
会員への情報公開	
学会発刊の書籍の販売について	
入会手続きについて	
退会手続きについて	
「日本学術振興会賞」候補者の推薦について	p.15
日本音楽表現学会第17回(かきつばた)大会のご案内 その2	p.16
2018年度役員・委員等一覧	p.16
編集後記	p.16

日本音楽表現学会



所在地：〒616-8025 京都市右京区花園土堂町1-6

事務局：同上

Tel. 075-462-1388

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費：5,000円

振込先：郵便振込口座 01370=6=78225 日本音楽表現学会

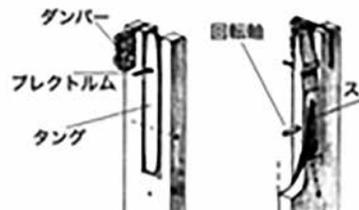
チェンバロとピアノの発音原理の歴史とそのレパートリー

山名 敏之（ピアノ／副会長）

本学会の会員にとって、J.S. バッハの平均律クラヴィーア曲集を演奏するためには「はじく」と「叩く」とではどちらが相応しいか、などといった議論はすでに退屈なものとなっているであろう。そこでチェンバロとピアノの歴史をめぐる少々捻りを加えた視点について書いてみようと思う。そのために少しばかり、この二つの楽器の発音機構の特徴についてお付き合いいただきたい。

チェンバロは弦をはじいた後、次の撥弦に備えるためにジャックを元の位置に戻す際に再度弦をはじいてしまわないようにする仕組みに工夫が必要な楽器であった。

その機構において注目すべき点はタングの下部とジャック本体との接触面の形状にある。この形状によってタングは後方に傾くことはあつて



図：ジャックの構造

も前方には傾かない。つまり弦を下から上へはじく際にはプレクトルムの直線的な運動が確保され、次の撥弦に備えるために上から下へと戻す際には弦をはじいてしまわないように後方へと傾斜するのだ。タングのエlegantな運動は、この形状によって初めて可能となるのである。今日現存する 1500 年代の初期のチェンバロからこの発音機構は備わっており、現代の復元楽器にいたるまで仕組み・形状・大きさが継承されている。この発音機構がいかに完成されたものであるかの証しであろう。

これに対し、ピアノは弦を叩いた後、ハンマーが弦に止まっていたら良い音が得られないことから、打弦後直ちに弦からハンマーが跳ね返されるための仕組みに工夫が必要な楽器であった。クリストーフォリが 1700 年頃に画期的な発音機構を開発し、グラヴェチェンバロ・コル・ピアノ・エ・フォルテを世に送り出してから 20 世紀初頭に至るまで、ピアノは凄まじい技術革新のもと、大きさ・形状・重量・構造の全てにおいて大幅に変容したことは周知のことである。これは発音機構においても同様であった。

さらには、2つの異なる発音機構が存在していたこともピアノにおいては特徴的である。現在は復元楽器においてのみ採用されている「跳ね上げ式」と呼ばれる発音機構は、ホッパーにジャックのタングの動きが応用され

ているユニークなものであった。しかしその仕組み自体が巨大化に対応するものでなかったことから 20 世紀初頭には淘汰されてしまった。

また初期ピアノのハンマーヘッドには鞣し革が使用されていた。この革のハンマーヘッドは徐々に多層化するとともに、ショパン全盛期のパリにおいてフェルトへの転換が開始されていった。つまりショパンは革のハンマーヘッドとフェルトのハンマーヘッドの双方を経験しており、まさにピアノの音の大変革期の渦中であつて作曲をしていたのである。ちなみに革に関してはハンマーの下位層には使い続けられるとともに、地域によってはフェルトのカバーとしても使われる等、革とフェルトのせめぎ合いは 19 世紀中継続していた。

ここまで論考を進めてくるとあることに気がつく。それはチェンバロの主要レパートリーは、その発音機構が完成し安定した後に作曲されたものが殆どであることに對し、ピアノの主要レパートリーは、その発音機構の大変革期（楽器全体についても同様）に作曲されたものが殆どであることだ。

ブラームスが演奏していたであろうベーゼンドルファーは、ベートーヴェンが使用したヴァルター、シュトライヒャー、ブロードウッドと同じ楽器とはもはや言えないほどの変わりようである。当然演奏法に変化がもたらされたし、譜面において各時代に共通して使用されている記号群には、実は違った属性が備わっていることにもなった。

つまり 20 世紀初頭までのピアノの変革の状況は、チェンバロにおいては、縦型のクラヴィチテリウムなどが存在した 1400 年代の開発途上の時代に相当し、20 世紀になって基本的な形状・構造・仕組み・重量が安定した現代のピアノの状況は、すなわちジャックに今の形でタングが設置されるようになった後の安定期のチェンバロに相当するのである。そしてピアノの製作の技術革新がほぼ終わり、安定期となった第 2 次世界大戦後においては、いわゆる「現代作曲家」達の響の趣味は、ピアノから他へと移ってしまったのである。

このように音楽史において諸要素がつねに並列的に進展していくわけではないことに注目すると、色とりどりの落ち穂が拾えてくると考えるのであるが、いかがだろうか。

日本音楽表現学会 第17回（かきつばた）大会のご案内

愛知でお会いしましょう！—大会参加のお誘い

日本音楽表現学会会長 後藤 丹^{まこと}

第17回「かきつばた」大会へのご招待

大会実行委員長 新山王 政和

17年前の学会発足当時103名だった会員数は順調に増え続け、現在では約600名を数えるまでとなりました。会員の顔ぶれは多士済々で、演奏家、作曲家から教育者、研究者まで音楽に関わるほとんど全ての分野の専門家が集結していると言っても過言ではありません。そしてまさにその点が当学会の魅力であり、少し見方の違う者同士で刺激を与えたり受けたりしながら、知らず知らずに変化・成長している自分を見出すのです。

これまで北海道から沖縄まで全国各地で大会が開かれてきました。万華鏡のような多彩な発表内容も目を見張るのですが、それに加えて各地の会員運営によるユニークな雰囲気は参加する会員の大きな喜びです。

今回は全国からのアクセスが便利な名古屋近辺にある愛知教育大学が会場となります。特に大会への参加未経験の方々、この学会の醍醐味は大会にあります。未知の友人や新たな研究発表があなたを待っています。それでは会場でお会いしましょう！

今回は愛知県の中央、三河國西端の刈谷市で開催いたします。「かりや」は1500年代から記録があり、会場校最寄駅「知立」も1600年代には「東海道五十三次」39番目の宿場「池鯉鮒宿」として整備されています。「かきつばた」で有名な知立神社は、大学へ向かう一つ目のバス停が便利です。愛知には観光地がない？ いいえ、徳川宗春の「芸どころ名古屋」を今に引き継ぐ「御園座」では会期中「レ・ミゼラブル」が上演されており、「大須演芸場」では毎日寄席を楽しむことができます。また野外博物館「明治村」と「リトルワールド」（世界各地の民芸品や楽器も売っている）も必見です。そして「ものつくりの地・愛知」ならではの「トヨタ博物館（約140台展示）」「名古屋：リニア鉄道館（鉄道車両と巨大ジオラマ）」「セントレア：フライト・オブ・ドリームズ（最新鋭機B787の展示を囲むシアトルの街中を模したショップ）」もお薦めです。それぞれ興味深い施設ですので、是非ホームページだけでも覗いてみてください。それでは実行委員一同、愛知教育大学で皆さまのお越しをお待ち申し上げます。

1) 実行委員会：

実行委員長：新山王政和（愛知教育大学）

事務局長：國府 華子（愛知教育大学）

実行委員：疇地 希美（同朋大学） 嶋田ひろみ（愛知教育大学） 高橋摩衣子（皇學館大學）

坪井眞里子（名古屋女子大学） 麓 洋介（愛知教育大学） 北山 敦康（元静岡大学）

補佐：小野 志織（愛教大院生）、鈴木 杜萌（愛教大学部生）

2) 大会日程と会場：

14日（金）													
											16:00		
理事会→実行委員会と共に会場準備													
15日（土）													
9:00	12:20	13:00	13:15	13:20	14:05	14:10	15:10	15:30	16:30	16:40	18:10	18:30	20:30
理事会	受付	開会式	基調講演		対談		総会	サロンA~H		懇親会			
16日（日）													
8:30	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	18:30	18:30			
受付	分科会IA~G		分科会IIA~G		特別性 選考委員会	分科会IIIA~G		分科会IIIA~G		理事会・実行委員会：繰り 返り委員会			

3) プログラム概要と発表者等氏名 (敬称略) :

オープニング：アカペラサークル Premier

基調講演：伊藤 康宏「音楽する脳と身体」

対談：伊藤 康宏 × 田中 昌司「音楽する脳と身体」 進行：水戸 博道

サロン：この時間帯はすべて「サロン」となります。サロンでは専門や関心を同じくする会員が集まり、共通の話題・テーマについて話し合います。当日一般会員、地域の音楽家も交えてサロンらしいディスカッションが行われます。詳細は『大会要項』でお知らせします。

A ピアノのサロン B 管弦打楽器のサロン C 作曲のサロン D 指揮のサロン
E 声のサロン F ソルフェージュのサロン G 日本音楽のサロン H 音楽表現と社会のサロン

研究発表等はすべて6月16日(日)に行います。分科会時間帯は以下の通りです。

時間枠	司会者	発表種	発表者	発表題目
A I ①	矢内 淑子	PP	佐野 晴美	日本歌曲の新しい視座—京言葉による歌曲の演奏・表現についての—考察—ジャズピアノにのせて—
A I ②		PP	渡部 成哉	シューマンの暗号—『女の愛と生涯』をめぐって—
B I ①	井上 朋子	PP	中畑 淳	器楽アンサンブルにおけるピアノパートの研究—演奏表現の課題と解決についての考察— (仮)
B I ②		PP	後藤 友香理	ピアノ・レッスンに関する質的研究—ゴールドベルク山根美代子(1939-2006)の指導言語に着目して—
C I ①	高橋 範行	CS	伊藤 康宏・武本 京子	「イメージ奏法」による音楽と映像が人の生理的反応に及ぼす影響(第2報)
C I ②		PP	山崎 英明	発声におけるピッチ制御の学習機構
D I ①	加藤富美子	WS	奥 忍	DVDによる能の授業に関する実践的研究
D I ②		PP	新保 江美	よこ笛って難しい?—教育楽器としての「ファイフ」の活用法について—
E I ①	板野 晴子	PP	岡野 真裕	ホルン演奏における顔面・頸部の筋活動—熟達者と中級者の比較(ケーススタディ)—
E I ②		PP	仲 万美子	日本近代音楽史における荻野綾子のまなびと諸活動の意義(仮)
F I ①	寺内 大輔	PP	吉永 誠吾	パガニーニ：24のキャプリースの演奏法
F I ②		WS	河本 洋一	ヒューマンビートボックス初級講座
G I ①	浦 雄一	PP	藤原 嘉文	音楽の即興表現を考える(8)—Beethoven時代の実践とその応用の可能—
G I ②		PP	中村 隆夫	「長調は明るく短調は暗い」という誤謬
A II ①	兼重 直文	PP	岡田 敦子	ショパンの演奏法を探る—使用楽器とピアノ書法
A II ②		PP	澤田 まゆみ	フリードヘルム・デュールの世界—《パウル・ツェラーンによる3つのバラード》(1996)を中心に—
B II αβ	石川眞佐江	WS	石場 惇史	音楽表現に連動する身体表現について
C II	学会企画統一テーマパネルディスカッション「音楽表現の伝統と伝承⑦—リズムとリズム感をめぐって			
	小西 潤子・岡田加津子・村尾 忠廣			
D II ①	斎藤 武	PP	木村 貴紀	演奏に於ける視座と音楽批評によるその位置づけ(仮)
D II ②		PP	鷲野 彰子	演奏の転換点—近代的ピアノリズムの出現—
E II ①	久次米祐江	PP	西田 紘子	弦楽四重奏団リハーサルにおける音楽理論・分析的思考と演奏実践の関係
E II ②		PP	鈴木 亜矢子	西村朗の《萩原朔太郎の詩による二つの歌曲》(1997、2004)—山田耕筰のアクセント理論を起点とした分析的研究—

F II①	PP	鶴澤 友球	自主企画【鶴澤友球 浄瑠璃おうちライブ】の成果と課題その2 —来場者へのアンケート調査から—
F II②	木下 千代	PP	熊谷 綾子 東くめの功績と《幼稚園唱歌》—なぜ〈お正月〉は歌い継がれてきたのか
G II①	田島 孝一	pp	甲斐 万里子 ピアノ演奏における自動化の意味と役割
G II②		PP	田中 昌司 オペラを観る、アリアを聴く、歌う、演奏をイメージする時の声楽家の脳波
特別枠	市橋 奈々	DM	武本 京子、神谷 舞、佐野美咲「イメージ奏法」による音楽の映像化の理論と実践
A III①	長岡 功	PP	横山 芙由美 ベートーヴェンのピアノソナタに見られる抒情性についての考察②
A III②		PP	深井 尚子 シャンドールの自由落下の観点から見たベートーヴェンのピアノソナタ 作品 57
B III α	大竹 紀子	PP	安田 香 ベルクの《3つのオーケストラ曲》第1曲の音響設計とモチーフ操作 —シェーンベルクとドビュッシーとの比較—
B III β		PP	阿部 亮太郎 1950年代生まれの日本の作曲家の立ち位置 —作曲家山田泉の作品と作風—
B III γ		PP	松川 亜矢 G. マルトウッチ《追憶の歌》についての一考察
C III α		PP	石原 慎司 世界の最先端にあった戦前日本の指揮法の受容と研究 —指揮図形に着目して—
C III β	樫下 達也	PP	飯村 諭吉 昭和初期のアマチュアバンドにおける小太鼓の練習法に関する教材史研究
C III γ		PP	鈴木 慎一郎 新民謡《吉岡小唄》と吉岡温泉
D III α	枝村 美夏	PP	笹野 恵理子 学校音楽のカリキュラム経験
D III β		PP	久保田 葉子 地域連携による児童の音楽的表現力の育成
D III γ		PP	田中 幹子 保育者の音楽表現に関わる一考察（仮）
E III α	荒川 恵子	CS	疇地 希美・嶋田ひろみ・山本八千代・吉村 雅美 絵本を活用した音楽会の実践報告—モデルタイプの構築を目指して—
E III β		PP	小島 千か 色と音を関連させた音楽づくり
E III γ		CS	佐野 仁美・岡林 典子・小畑 郁男 旋律づくりの指導の可能性 —小学校低学年における実践から—
G III α	多田 純一	PP	三島 郁 H. リーマンの楽譜「校訂」の方法
G III β		PP	中 磯子 音楽を伴うアプローチにより行動が変容した発達障がい児を有する 幼児たちの事例
G III γ		PP	宮田 知絵 歌における主題や語句、楽曲の背景理解を深めるための手法と視線
A IV①	石井 玲子	PP	末永 雅子 C.Ph.E. バッハのフライエ・ファンタジーの研究
A IV②		DM	榊原 明子 Reverberation—梵鐘とピアノの響演—
B IV α β	上野 正人	DM	初山 陽子 ヘンデル《メサイア》の作曲当時のディクシオンによる演奏（抜粋）
C IV①	杉山 雄一	PP	尾見 敦子 コダーイ・メソッドによるヴァイオリン教授法とその教師養成 —フィンランドの Colourstrings と Minifiddlers の現地調査をとおして—
C IV②		PP	小島 エマ ミュージック・ラーニング・セオリーに基づく乳幼児音楽アクティビティ 研究—実践協力者へのヒアリングから—
D IV①	檜垣 智也	PP	伊藤 憲孝 ジョン・ケージのプリパレーション—音高・素材・設置距離に着目して—
D IV②		PP	曾田 裕司 ジョン・ケージにおける自由とはいかなるものか—鈴木大拙の見地から—
E IV①	徳永 崇	PP	安積 京子 加速する少子化社会中国、他方拡大一途の音楽教育と音楽産業
E IV②		PP	清水 稔 自己の因果律に囚われない創造の契機としての図形楽譜の有効性
G IV①	渡会 純一	PP	永岡 都 教員・保育士養成におけるバイカルチャーの音楽教育プログラム —お囃子、ガムラン、室内楽の旋律認知に着目して—
G IV γ		PP	櫻井 知子 『コドモノクニ』の童謡に見られる歌詞について

- ・16日の昼食：16日の昼食は弁当を申し込むか、ご持参ください。大学周辺にコンビニはありません。弁当は5月25日（土）24時で申込みを〆切ります。それ以後は受け付けません。
- ・申込書宛先：記入事項をご確認の上、学会事務局までメールでお送り下さい。
music-expression@music-expression.sakura.ne.jp
- ・参加申込〆切：5月25日（土）24時 厳守
5月25日以降は、直接会場でお申し込みください。
参加費は期限までにお振込みいただき、当日振込票を念のため必ずご持参ください。

【当日一般および学生会員用書式】

第17回（かきつばた）大会参加申込書

必要事項をご記入下さい。

該当する□と（ ）に✓を付けて下さい。

ご氏名：

連絡先：〒

E-mail

緊急連絡：（携帯電話等）

参加費：

当日一般会員1日につき3,000円 参加希望日（ ）15日（ ）16日 小計_____円

当日学部学生会員1日につき1,000円 参加希望日（ ）15日（ ）16日 小計_____円

（『大会要項』は当日受付で頒布1部500円）

所属大学名（ ）

懇親会費： 4,000円

16日（日）の弁当 1,000円

合計： _____円

以上の金額を（ 月 日）に振り込みました。

- ・参加費の払込：・払込は必ず「大会参加用郵便払込取扱票」でお願いします。
・当日一般会員はまず事務局に参加をお申し込み下さい。
お申し込み後に郵便振込票を送ります。
・振込領収書は念のため当日ご持参下さい。

- ・16日の昼食：16日の昼食は弁当を申し込むか、ご持参ください。大学周辺にコンビニはありません。

『音楽表現学のフィールド2』はお持ちですか？

日本音楽表現学会の総力を挙げて刊行した『音楽表現学のフィールド2』。2016年9月15日に出版されてから2年半を経ました。その間の新入会員は100名近く、会員総数も600名を超えました。

みなさま、『音楽表現学のフィールド2』はもうお読みですか？

ご自身用、研究室・図書館用、日頃の活動報告用、プレゼント用等に購入のご検討を是非お願いいたします。学会員のメリットとして、会員対象の特別割引価格を設定しています。また、みなさまにご購入いただいたお金は「学会基金」として、次の『音楽表現学のフィールド』発刊や『音楽表現学』の電子化（検討中）など、みなさまの研究成果を発信していくために用いられる予定です。必要事項（氏名、冊数、送付先、電話番号、メールアドレス）を明記の上、メールでお申し込みください。申込受付後『フィールド2』に振込を同封して送ります。

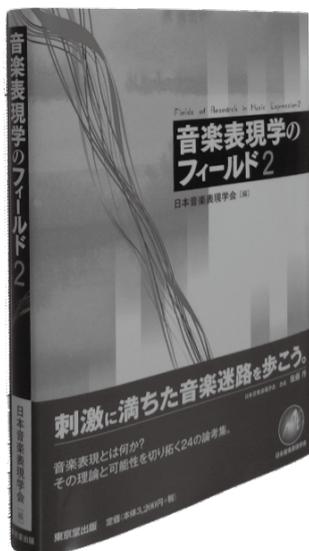
定価：3,456円（税込）会員特別価格 3,000円（税・送料込）

著者特別価格 2,800円（税・送料込）

申込先：music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

送金先：郵便振替口座番号 01370=6=78225

口座名：日本音楽表現学会



新入会員紹介

個人情報に付き削除しています。

日本音楽表現学会後援コンサート等情報

大木 美穂さん **音楽をする人のためのメンタルトレーニングワークショップ**

日 時：2019年2月16日(土) 10:00-11:45

会 場：東京音楽院（新宿区新宿5-11-20 伊土ビル202）東京メトロ新宿三丁目

料 金：2,000円（高校生以下1,500円）

主 催：東京音楽院

ファシリテーター：大木美穂

豊田 典子さん **歌の会青い星オペラアリアコンサート Vol.2**

日 時：2019年3月24日(日) 13:30 開演

会 場：兵庫県立芸術文化センター 小ホール

演奏者名：豊田典子(Sop)、他

演奏曲目：「ルサルカ」より《月に寄せる歌》、他

料 金：3,000円

主催後援：歌の会青い星、神戸波の会、他

岡田 孝さん 「月と良寛」女声コーラスの会ミルテの花 2019 年公演
日 時：2019 年 3 月 25 日 14:00 開演
会 場：宝塚ベガホール
演奏者名：ソプラノ：宮田知絵、合唱ソロ：熊谷綾子 指揮・監督：岡田孝、他
演奏曲目：大中恩〈月と良寛〉、モーツァルト〈来たれ愛しきツィターよ〉、湯山昭
〈越後の恋歌〉、他
料 金：2,000 円

佐野晴美さん 京の春コンサート
日 時：2019 年 4 月 14 日（日）16:30 開演
会 場：長谷川 歴史・文化・交流の家
料 金：前売り 2000 円 当日 2500 円
出 演 者：佐野晴美、他
主な曲目：《京ことばによる歌曲》よりはんなりはなあかり〈はなとうろ〉

平 真弓さん
野崎博子さん
安田 香さん
第 61 回「おとの会」コンサート
日 時：2019 年 6 月 22 日（土）14:00 開演（15:30 開場）
会 場：名古屋市熱田文化小劇場
料 金：入場無料
演奏者名：平真弓、野崎博子、安田香 他
曲 目：ガーシュイン-ワイルド《超絶技巧練習曲》、安藤悦夫〈ブラームスによるファン
タジー〉、イベール〈金の亀を飼う女〉、ドビュッシー《2 つのアラベスク》、他
主 催：おとの会
問合せ先：052-682-0222（会場）

会員による新刊

吉田直子さん 編著『なんのうたかな？ こどものうた 50 曲選』
発行年月日：2018 年 12 月 6 日
出 版 社：ファウエム・ミュージック・コーポレーション
定 価：本体 1,400 円 + 税
ISBN コード：ISBN978-4990588793

樫下達也さん 『器楽教育成立過程の研究』
発行年月日：2019 年 1 月 31 日
出 版 社：風間書房
定 価：本体 9,000 円 + 税
ISBN コード：ISBN978-4759922547

デジタル時代の研究者

小野 亮祐 (理事／音楽史)

大学で連絡事項を伝達する際「先生、板書の写真撮りますからプリント配布はいいです」と学生から言われることが多くなった。私はプリントにして配るつもりだったが、最近は板書の「写メ」でいいらしい。しかし紙媒体発想から抜けない私は、しばしば同じ過ち？を繰り返しては、プリント配布を制止されてしまう。自らの時代遅れ感にちょっぴり落ち込みもするが、私の研究（歴史研究）姿勢のせいだと思うことにした。なんと言ってもこの分野、紙媒体の資料（史料）がないと始まらない。しかし、その歴史研究もデジタル時代の波からは免れないとひしひしと感じる。

思ってみれば、世紀の替わり目くらいからその予兆はあった。まだ当時は資料館に手紙などで依頼して、紙コピーを送ってもらうことが主流だった。一方で、デジタルカメラが一般にも手に入るようになったのもそのころで、私も時を同じくしてデジカメを手にしてドイツに留学した。まだフィルムカメラが主流だったが、運よく留学先の図書館ではすでにデジカメによる資料のセルフ撮影がOKだった。もちろん当初は頑張って手で写したり、資料を見ながら論文を書いたり、どうしても紙でほしければコピーを依頼した。それが当然であると信じて疑わなかったのだ。それがある日不意に「デジカメで撮影してもよいのだけど、しかも無料で」と図書館員に言われ、そこから一気に図書館での仕事が変わったのだ。

なにせ20年近く前のことである、今から思えば持ちの悪いバッテリーに、容量の少ないメディア、そして性能の悪いピント調節に悪戦苦闘しながら、図書館で何時間もこもっての写真撮影の日々となった。図書館で写真撮影？と自分でやっていて居心地の悪さを感じた当時だったが、あれよあれよという間にデジタルデータで資料収集することは当たり前になった。今やコピー依頼といえばデジタルスキャンが当然となり、ここ数年は自分で撮影できる場所が増えてきているように思う。あるドイツの公文書館ではつい数か月前の調査まで毎回「ん万円」も

コピー（スキャン）代を支払っていたのに、つい先日行くとセルフ撮影OKになっており、思わず「コピー代返せ…」とってしまったくらいだ。それにしても文書館で研究者たちが首からカメラを提げて写真撮影をしている風景は本当に奇妙である。他方で、図書館の歴史的蔵書（楽譜）は急速にデジタル化され、図書館のサイトやGoogle Booksで無料で閲覧・ダウンロードできるようになってきている。印刷された活字（楽譜）をただ読むだけなら、現地に出かける必要がない次元にぼちぼち達し始めている気がする。

以上の話はいわゆる歴史的な原資料の場合であるが、図書館にある一般的な蔵書についても違った意味でデジタル化の波が激しい気がする。つい数週間前、かつての留学先の大学図書館から（今でも利用するので利用者登録はしている）、とうとう紙コピー機を止めるとメールが来た。そのかわり設置されるスキャナーでUSBまたはスマホに保存するようにと、しかもその代金は無料(!?)とのことだ。

こうなってくると資料収集だけでなく、研究スタイルやその姿も大きく変わってくるだろう。かつては、まず下調べをしっかりとし、その上で必要な資料を依頼する流れだったように思うが、今ではネットサーフィンならぬ資料サーフィンする中で研究の問題意識を醸成させるようなこともあるように思う（実際ある）。そして図書館や文書館はもはや写真撮影の場となり、気になる文献があれば財布を気にせずとりあえずどんどん撮影（スキャン）することだろう。

きっと歴史研究だけではなく、音楽表現の研究全体でデジタル化の波をうけて大きく変化してゆきつつあることだろう。時々譜面台の上にタブレットがある光景を目にするし、演奏の場合はデジタル技術による録音や録画も欠かせない。上記のデジタル時代の印象はあくまでも私の限られた研究視野からのものだ。様々な角度から音楽表現に与する人の集う本学会で、いつの日か「あなたにとってのデジタル時代の音楽表現研究とは？」と問うてみたい気がする。

『音楽表現学』Vol.17 原稿募集

〆切は2019年5月15日(水) 24:00です。

『音楽表現学』編集委員長 吉永 誠吾

投稿資格：投稿者および共同執筆者は、2019年度の年会費を納入した会員に限る。(投稿規定3)

執筆要領・投稿方法：『音楽表現学』Vol.16の巻末、または学会HPの「投稿規程」をご覧ください。

投稿書式：投稿時点では2段組でなく、1段組でご応募ください。

引用文献の記載方法：HPに例示しています。

- * 投稿する前に、ご自身が上記「投稿資格」に該当することをご確認ください。
- * 本学会発行『2018年版研究論文執筆のしおり』を座右にご執筆ください。執筆者の意図が読み手に伝わるかどうか、投稿前に周りの知人に一度読んでもらうことをお勧めします。
- * 応募原稿が論文及び学術誌の原著性を損ない、論文の著作権の帰属に関する問題や研究実績の不当な水増しにもつながり得る「研究者倫理に反する行為」にならないよう注意してください(文部科学省ガイドライン)。
- * 投稿に際しては学会HPに掲載されている「音楽表現学テンプレート」をご使用ください。
- * 投稿する前に、投稿予定の原稿が学会HPの「投稿チェックリスト」に適合していることをご確認ください。
- * 投稿原稿には学会HPに示された書式の「投稿申込書」を同封してください。
- * 『音楽表現学』には「原著論文」「評論論文」「研究報告」

の他に「批評」「書評」「寄書」「展望」「解説」「その他、国際会議参加報告、研究所紹介等」も掲載できます。執筆に挑戦してみようとお考えの方はどうぞ学会事務局までお問い合わせください。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

毎年『音楽表現学』には多くの方が投稿してくださっています。編集委員会ではそれら投稿原稿と査読委員の意見を1本ずつ丁寧に読み込み、採択するに相応しいかどうか、議論を重ねています。しかし、過去の投稿原稿の中には急ごしらえのものや、〆切間際にエイヤッと決心をして〆切日の23:59に送られてくるものもありました。

投稿は自分の主張を人に読んでもらい、理解してもらうためのものです。もしも「書く」行為そのものに意味があると考えられるのなら、ご自分の引き出しにそっと閉まっておけばよいのです。

「人に読んでもらう、理解してもらえ」投稿原稿を作成するために次の諸点に留意されるようお勧めします。

- ① 最初に本学会発行の『2018年度版音楽表現論文執筆のしおり』を一読されることをお勧めします。『しおり』にはこれから書こうとする人のために多くのヒントや練習が記載されています。
- ② 原稿完成を締切日の1週間前を目処にして作成されることを強くお勧めします。
- ③ 「完成した」と思ったら一晩寝かせてください。
- ④ 翌日、完成した原稿と「投稿チェックリスト」の項目を照合して、原稿が各項目を充足しているか、確認してください。
- ⑤ 同時に回りのだれかに読んでもらいましょう。他の分野の方でも構いません。読んでもらうことによって、自分の主張・意図を自分が考えているように理解してもらえかどうか分かります。
- ⑥ 採択される原稿の多くは、以下のような要件を備えています。
 - ・『音楽表現学』に掲載原稿として、内容や主題が適切である。すなわち、問題設定と研究方法・研究対象が、音楽表現研究として妥当であり、説得力がある。
 - ・関連する先行研究を十分にふまえた上で、未発表の
- ⑦ 演奏する曲を何度も繰り返し練習するように、自分の文章も何度も読み直して推敲しましょう。推敲は執筆者の主張の客観性を問い直すとともに、読み手に誤解なく伝わる文章へと原稿の質を高める過程でもあります。推敲に十分な時間と手間をかけてください。その熱意が原稿の評価へと結びつくでしょう。

皆さまの投稿をお待ちします。

事務局からの重要なお知らせとお願い

1. 年会費の納入について

(1) 年会費の納入期間：4月中にお願いします。

学会は皆様方の年会費で運営されています。期限内に納入がなければ、発表申込みや原稿投稿ができません。また、その年度の総会までに3年滞納された方は、総会での審議事項、年会費滞納による除籍対象者になります。無意識滞納にご注意いただきますと同時に、対策の一助として、納入後はただちに、「振替払込請求書兼受領証」(ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」)に、納入年度をメモの上、保存されることをお勧めいたします。年会費をまだお振り込みでない方はお急ぎください。

(2) 振込方法：同封のゆうちょ銀行青色の「払込取扱票」をご利用ください。

電信での送金は、内容確認が困難であり混乱の原因となります。学会では、財務局での入金確認作業を確実にするため、デザイン室で印字した「払込取扱票」の利用をお願いしております。何卒ご協力ください。

振込先：郵便局の振込口座 01370-6-78225 名義：日本音楽表現学会

* 海外在住等、国内でのお振込みが難しい方は、事務局へご相談ください。

(3) 領収書・請求書の発行：必要な方は事務局へ問い合わせを

領収書は原則として発行いたしません。「振替払込請求書兼受領証」(ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」)を領収書として保管ください。

大学研究費での引き落とし等、請求書・領収書の必要な方は事務局へお問い合わせください。財務局へ取次ぎ、発行手続きをいたします。

(4) 年会費減免措置について：自然災害等の被災による減免措置の制度

学会では、地震や洪水等、自然災害の被災によって年会費納入が困難な会員の年会費を減免する制度があります。必要な方は、HPから以下の書式をダウンロードし、申請ください。理事会

に諮り、減免手続きをいたします。

「年会費減免願」書式(20170321版)：

被災による年会費減免願	
	年 月 日
日本音楽表現学会	
会長 後藤 丹 様	
このたび、(〇〇地震)被災により、(〇〇〇〇年度)年会費の納入免除をお願いいたしたく、減免願を提出いたします。	
なお、(□□□□)年度分までの会費は納入済みですのでご確認をお願いいたします。	
氏 名：	_____
現在の連絡先：	_____
連絡先電話番号：	_____
e-mailアドレス：	_____
減免申請の理由(具体的に納付困難の理由をお記しください。)	

2. 住所等、会員情報の変更：HPフォームにて速やかにお知らせを

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html>

学会からの送付物は事務局本部で理事とスタッフが手作業で、お届けいただいた連絡先にお送りしています。しかしながら、転居先不明等で返却される封筒が少なからず存在します。そのたびに所属先や、時には入会時の「推薦者」に問い合わせ再送しています。このような手間と経費を削減するために、みなさまのご協力を切にお願い申し上げます。

3. 学会会員のサポート制度

(1) 機関誌『音楽表現学』への投稿

原稿の投稿には、会員資格取得と投稿時点で当該年度までの会費を完納していることが必要条件です。手続きには2～3週間かかります。その点を銘記してください。

『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。

―――投稿〆切は5月15日―――

(2) 大会での発表

本学会ならではの生の音楽表現を含めた研究発表の機会をご利用ください。原稿の投稿には、前年12月15日までに会員資格を取得していることと発表申込時点で当該年度までの会費を完納していることが必要条件です。応募〆切は、2月15日です。エントリー締め切り間際のリマインドメールは送しません。申込み期日を銘記してください。

4. 会員への情報公開

(1) ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見などを、随時ご寄稿ください。

- ・研究ノート、随想など：図表等を含めて刷り上がり1頁以内。

(2) コンサート等の後援・協賛

本学会ホームページのリンクから〔コンサート等後援／協賛申請フォーム〕にて事務局へ申請してください。確認後、事務局より「後援受理書」をお送りしますので、チラシやプログラムに学会名を掲載ください。また、HP及びニュースレターにも案内を掲載させていただきます。

[コンサート等後援／協賛申請フォーム]

以下の項目それぞれ1行で39字以内を原則とする。

(文例) 以下のコンサートの後援をお願いします。
会員氏名： _____
演奏会タイトル： _____
日 時： _____
会 場： _____
料 金： _____
出演者（会員）： _____
主な曲目： _____
問い合わせ先： ホール電話番号 _____
*個人の携帯番号・メールアドレスはセキュリティ上、HPには記載いたしません。

(3) 新刊案内・CD/DVD リリース

著者名（会員）、書名（ISBN）、出版社、価格（税込）、購入方法なども含めてお知らせください。ニュースレターとHPに掲載します。

(4) その他：隣接領域の研究会等情報などもお寄せください。

投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

5. 学会発刊の書籍の販売について

長らく絶版となっていたVol.1を復刻しました!

(1) 『音楽表現学』バックナンバー購入方法：

メール等で事務局までお申し込みください。

以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

Vol.	会員価格（1部）	一般価格（1部）
1～3	2,500円+送料	3,000円+送料
4～14	3,000円+送料	3,500円+送料
15以降	2,500円+送料	3,000円+送料

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。

(2) 『音楽表現学のフィールド2』好評発売中

会員価格にて購入いただけます。

購入申込：メールで事務局までお申込み下さい。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

送金：『フィールド2』に専用振込票を同封します。

加入者：日本音楽表現学会

口 座：01370-6-78225

[購入申込書]

『音楽表現学のフィールド2』の購入を申し込みます。
氏 名： _____
部 数： _____
送 付 先： _____
連絡用 E-mail： _____

6. 入会手続きについて

- ・入会申込みは随時受け付けます。入会申込書は次頁のフォーム、またはHPからフォームをダウンロードしてメールで学会事務局へお申し込みください。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

- ・学会からの連絡（印刷物お届けなど）は、ご記入いただいた「連絡先」に送付します。
- ・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。

- ★『音楽表現学』への投稿や大会での発表の申込みには本会会員であることが条件です。手続きには時間がかかります。次年度の大会発表希望者、『音楽表現学』投稿希望者は、前年の12月15日までに会員資格を取得してください。

[入会申込書フォーム]

入 会 申 込 書	
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。	
年 月 日	
氏名 (ふりがな) :	_____
専門分野 :	_____
所 属 :	_____
自宅住所 :	〒 _____
連絡先 : (上記と異なる場合) 〒	_____
連絡先 Tel. :	_____
e-mail :	_____
推薦者名 (学会員・1名)	_____

7. 退会手続きについて

退会には以下の3点が必要です。

- ① 「退会届」をHPからダウンロードし、事務局に提出
 - ② その年度までの年会費完納
 - ③ 理事会の承認
- 「退会願」を提出しないで、年会費を先延ばし

にしていると「会則第8条」によって除名処分になります。仕事や私的な理由で残念ながら学会員を「これ以上続けることができない」と判断された場合には、必要な手続きを行ってください。

[退会願フォーム]

退 会 願	
年 月 日	
日本音楽表現学会	
会長 後藤 丹 様	
このたび、日本音楽表現学会を退会したいので「退会願」を提出いたします。	
なお、今年度分までの会費は納入済みですのでご確認をお願いいたします。	
氏 名 :	_____
連絡先 :	_____
連絡先 Tel. :	_____
e-mail :	_____
退会理由 :	_____

「第16回(平成31年度)日本学術振興会賞」候補者の推薦について

日本学術振興会から平成31年度「日本学術振興会賞」の候補者推薦の依頼が届いています。以下の3つの条件に合致する会員は学会から推薦を検討しますので、事務局にまでHP掲載のフォームをお送り下さい。

1. 対象分野：人文学、社会科学及び自然科学にわたる全分野
2. 対象者：平成31年4月1日現在、以下の1)から3)の条件を満たす者。
 - 1) 日本国籍を有するもの、外国人であっても推薦時点において我が国で5年以上研究者として大学等研究機関に所属しており、今後も継続して我が国で研究活動を予定している者。
 - 2) 45歳未満であること
 - 3) 博士の学位を取得していること(または同等以上の学術研究能力を有する者を含む)海外在住の日本国籍を有する研究者も対象としています。
3. 審査会において25件程度選考します。
4. 受付期間；平成31年4月4日から9日17時まで(必着)

申し出のあった会員の中から本学会として推薦するにふさわしいと思われる方を「〈日本学術振興会賞〉および〈育志賞〉の推薦に関する内規」に基づいて推薦します。候補者として選ばれた方は振興会賞の受付期間(4月4日〈木〉～9日〈火〉)までに書類を準備、必着で学術振興会に書類を送ることになります。ご質問等がありましたら事務局 music-expression@music-expresshion.sakura.ne.jp までご連絡下さい。

★事務局より

ニューズレター発行日との関係でお知らせが間際になっています。「日本学術振興会賞」の推薦依頼は毎年1月に届きますので、挑戦してみようとお考えの会員は学術振興会のHPでご確認の上、予め事務局までご相談下さい。

日本音楽表現学会第17回（かきつばた）大会のご案内

会 場：愛知教育大学（愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1）

会 期：2019年6月15日（土）～16日（日）

毎回演奏で幕開く日本音楽表現学会の大会、第17回（かきつばた大会）では愛知教育大学の学生サークル「アカペラサークル Premier」がこのミッションを担います。

基調講演は、刈谷市に隣接する豊明市にある藤田医科大学の伊藤康宏教授による「音楽する脳と身体」、続く田中昌司上智大学教授との対談では、音楽するときに我々の脳の中で何が起こり、身体はどのように変化するのが語られます。科学は私たちの音楽行動、表現をどこまで解明できるのでしょうか？ 司会を担当する水戸博道明治学院大学教授も含めて、登壇者は全て本学会の会員です。この学会から臨む地平の広がりの中で、自分の表現はどの方向に向かおうとするのか、かきつばた大会を機に考えてみませんか。

実行委員会からのメッセージ

愛知教育大学の所在地は刈谷市です。しかし、交通機関はJRではなく、名古屋鉄道名古屋本線をご利用戴くことになります。大学行のバスが出ている最寄駅は「名古屋鉄道^{ちりゅう}・知立駅」です。JR刈谷駅からは距離があり、バスの便もよくないのでくれぐれもご注意ください。なお、ホテルの手配はお早めをお願いします。

2018年度役員・委員等一覧

会 長：後藤 丹	著作権ワーキング：	会長諮問会議：安藤 政輝
副 会 長：加藤富美子 山名 敏之	代表 中村 滋延	小西 潤子
事務局 長：舟橋三十子	委員 近藤 晶子	佐々木正利
財務局 長：海津 幸子	酒井 勇也	杉江 淑子
理 事：小野 亮祐（事務局担当）	高橋 豊	豊田 典子
渡会 純一（財務局担当）	福本 康之	
安藤 珠希（総務担当）	選挙管理委員会：	参事：（事務局）似内裕美子
澤田まゆみ（総務担当）	委員長 笹野恵理子	松井 萌
編集委員会：	委員 大澤 智恵	近藤 晶子
委員長 吉永 誠吾	榎下 達也	
副委員長 水戸 博道		デザイン室長：奥 忍
委員 大竹 紀子 尾見 敦子		（スタッフ：松宮 和子）
上山 典子 齊藤 武	監事：	
中 磯子 宮本賢二郎	應和 恵子	
	小川 有紀	

編 集 後 記

毎年3月が来ると、東日本大震災の日、当時非常勤で勤めていた大学で、学食のおじちゃんとおにぎりをにぎって学内の職員の方々に配ったこと、研究室に椅子を並べて油単（箒の覆い袋）を布団代わりにして泊まったことなどを思い出します。東日本大震災の前後にも、多くの災害が起きています。「被災者に真に必要な音楽的支援とは何か」。『音楽表現学のフィールド2』第9章は「震災と音楽表現」について書かれていますので、まだの方は是非お読みいただければと思います。

さて、「かきつばた大会」のご案内をメインとした、平成最後のニューズレターをお届けいたします。年々発表数が増える中、お昼休みなしという第16回大会時の初の試みに続き、今回もさらに初の試みとして30分枠を設けてみました。本誌p.4-5の分科会一覧表をご覧ください。では、刈谷でお会いしましょう。（安藤 珠希）

か)らころも き)つつなれにし ㊦)ましあれば ㊨)るばるきぬる ㊩)びをしぞおもふ（在原業平）